



成果報告会～P2 院生より 2年間の学びを共有～

2月16日、教育実践研究の成果報告会を、新型コロナの状況を踏まえ、オンラインで開催しました。教職大学院での2年間の学びの集大成となる場です。限られた時間の中で取組を紹介することに苦心しながらも、よい緊張感の中で、それぞれの取組の成果を、自信をもって報告できていました。質問や意見から、今回の取組の目的や意義を改めて考え直し、より成果を実感することができたようです。今回の学びを、学校現場においてさらに充実させてほしいと思います。



Kumamoto Education Week 2023.1.21-29

Kumamoto Education Week(熊本市教育委員会主催)が開催され、50を超える動画の配信がされました。熊本大学関係者も、多く出演しています。子どもに関わる学校や家庭、地域だけに限らず、企業や行政、民間など、様々な立場の人が有機的につながり、共によりよい社会の実現を目指す「教育エコシステム」の取組の1つです。すべての動画が、右のQRコードを読み取ると見ることができます。どうぞご覧ください。

Kumamoto Education Week(熊本市教育委員会主催)が開催され、50を超える動画の配信がされました。熊本大学関係者も、多く出演しています。

子どもに関わる学校や家庭、地域だけ



KEW Digital Contest
審査結果発表

- ★ 静止画
- ★ 動画
- ★ プログラミング
- ★ 音楽

熊本大学教職大学院主催「KEW デジタル作品コンテスト」を実施しました。2回目となる今回は、223の素晴らしい作品の応募がありました。結果発表は1月29日にオンラインで行い、その様子を右のQRコードから見ることができます。



P1院生による 授業紹介

生徒指導問題 解決方法 I

本授業では、事例検討会の手法の1つとしてPCAGIP(Person Centered Approach Group Incident Process)法を学びました。これは、カール・ロジャーズの来談者中心療法による事例検討の手法です。参加者による質問をもとに、事例提供者が安心して自分の思いを語る事ができることがこの手法の特徴です。

授業の中で、現職院生の事例を基に2回演習を行いました。それだけでなく、熊本市内3つの学校に協力して頂き、学校現場の事例を基に検討会を行うことができたのも大きな経験だと思います。(P1 松本秀之)



P2院生による 研究紹介

不登校傾向にある生徒の 支援に関する研究

学校に行きづらさを感じている子どもへの支援の一つとして「別室」の効果的な活用が期待されています。所属校で別室を開設し、そこでの子どもたちとの関わりを通して、生徒理解をどのように深めていくのかを研究しています。「別室で安心して過ごしてほしい」その思いを胸に子どもたちとの関わりを通して「じっくり聴いて、寄り添って話す」という、大事にしたいことが見えてきました。子どもの言葉に耳を傾け、受け止め、安定した土台を提供するのが私たち教師の務めであり、別室での支援なのではないかと感じています。(P2 堀尾光二)

